

| 項目 | 内容 |
|----------|--|
| 名称 | ハネセンナ、キャンドルブッシュ、カシア・アラタ、ゴールデンキャンドル、ゴールドブッシュ [英]Candle bush [学名]Cassia alata、Senna alata L. |
| 概要 | <p>ハネセンナは南アメリカ原産の低木で、約3mに生長する。葉は幅広の楕円形で、葉軸から左右に6～12対並ぶ。葉の長さは約15 cm、幅は8 cm。花は鮮やかな黄色で丸みを帯び、5枚の花弁からなる。柄のある多数の花が花軸に総状につく。果実は熟すと暗褐色になる豆果である。</p>  |
| 法規・制度 | <p>■ 食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全草:「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 |
| 成分の特性・品質 | |
| 主な成分・性質 | <ul style="list-style-type: none"> ・葉にはアデニン、kaempferol 3-gentiobioside、アルカロイド (cassiaindoline) を含む(PMID:12951489) (PMID:11725550) (PMID:19678534)。kaempferol 3-O-gentiobioside含有量は、成熟した葉で2.0～5.0%、幼葉で1.0～4.0%。種子には含まれない (PMID:12837355)。 ・センノシド AとセンノシドBは全部位で検出されたが葉と根に多く、アントラキノン類ではAloe-emodin が小葉と茎と根、 Rheinが全部位、Emodin は花茎や茎と |

根、Chrysophanol は茎と根、Physcion は茎と根で検出されたという報告がある (2010122042)。

・根にはフェノール合成物、アントラキノン類、フラボノイド類を含む ([PMID:18371725](#)) ([PMID:17236095](#))。

・種子にはフラボノイドグリコシドを含む ([PMID:1367783](#))。

分析法

・ kaempferol 3-O-gentiobiosideをHPLC法にて測定した報告がある ([PMID:12837355](#))。

・根抽出物中のフェノール類、アントラキノン類、フラボノイドをHPLC-MSを用いて測定した報告がある ([PMID:18371725](#))。

・ ultra-performance liquid chromatographyによりセンノシド Aとセンノシド B、5種類のアントラキノン類 (aloe-emodin, rhein, emodin, chrysophanol, physcion) を同時分析した報告がある (2010122042)。

・ハネセンナを含むとの表示がある製品 (ティーバッグタイプ、粒タイプ) 中に含まれるセンノシドをHPLCにて分析した報告がある (2013132779)。

・小葉、花部、果実中のセンノシドA、センノシドBをHPLCにて分析した報告がある (2013015976)。

有効性

循環器・
呼吸器

調べた文献の中に見当たらない。

消化系・肝臓

RCT

・便秘症の患者80名 (試験群24名、15~86歳、タイ) を対象とした無作為化プラセボ対照試験において、葉の浸出液120 mLを就寝前に摂取したところ、24時間以内の排便率が高くなった ([PMID:2203870](#))。

ヒ
ト
で
の
評
価

糖尿病・
内分泌

調べた文献の中に見当たらない。

生殖・泌尿器

調べた文献の中に見当たらない。

脳・神経・
感覚器

調べた文献の中に見当たらない。

免疫・がん・
炎症

調べた文献の中に見当たらない。

骨・筋肉

調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長

調べた文献の中に見当たらない。

肥満

調べた文献の中に見当たらない。

その他

調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
[\(PMID:12951489\) Biol Pharm Bull. 2003 Sep; 26\(9\):1361-4.](#)
[\(PMID:11725550\) 薬学雑誌. 2001 Nov;121\(11\):817-20.](#)
[\(PMID:18822337\) Food Chem Toxicol. 2008 Dec;46\(12\):3598-603.](#)
[\(PMID:1367783\) Phytochemistry. 1991;30\(8\):2761-3.](#)
[\(PMID:17236095\) Planta Med. 1994 Dec;60\(6\):601.](#)
[\(PMID:19678534\) Z Naturforsch C. 2009 May-Jun;64\(5-6\):335-8.](#)
[\(PMID:11933153\) Phytother Res. 2002 Mar;16 Suppl 1:S93-6.](#)
[\(PMID:2203870\) J Med Assoc Thai. 1990 Apr;73\(4\):217-22.](#)
[\(PMID:18371725\) Talanta. 2008 Jan 15;74\(4\):896-902.](#)
[\(PMID:914326\) Indian J Exp Biol. 1977 Mar;15\(3\):208-19.](#)
[\(PMID:12837355\) Fitoterapia. 2003 Jul;74\(5\):425-30.](#)
(2010122042) 生薬学雑誌. 2010;64(1):21-5.
(2013132779) 岐阜県保健環境研究所報. 2012;(20):7-10.
(2013015976) 生薬学雑誌. 2012;66(2):77-80.
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
[\(PMID:27642356\) Evid Based Complement Alternat Med. 2016;2016:7869710.](#)